

課題研究によるグローバル人材育成 ～神戸市外国語大学の取組み例～

中嶋 圭介

神戸市外国語大学外国語学部准教授
(米国)地球高齢化研究所非常勤上級研究員

2015年3月9日
神戸市立葺合高校

グローバル人材育成

グローバル化の進化(深化)によって広く・深く繋がれ、急速に変化する政治・経済・社会の中で、多様な利害関係者と「分かり合えない」ことを前提としてより複雑な問題に取り組む必要性が高まっている。

グローバル人材

- ・ 情報収集能力(方法論)
- ・ パースペクティブ
- ・ 広く・深い知識
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 課題解決能力

外大・中嶋担当講義

専攻英語講読(3~4年生) “Global Issues”

国際ビジネス・コミュニケーション(2~3年生)

神戸研究(2~4年生)

神戸市外国語大学「神戸研究」

□ 「神戸研究」

外国語学部ICC(異文化コミュニケーション)コース2～4年生対象講義

この授業では、国際都市神戸と世界の「つながり」に焦点を当てる。歴史、文化、宗教、教育、建築、ファッション、防災、観光、政治、ビジネスなど神戸の特徴を切り口に選び、文献調査、データ収集、インタビュー等を行い、その結果を前期は英語でプレゼンテーション、後期は英語論考にまとめる。

英語プレゼン・論考の内容は、学んだことをまとめるだけに留まらず、批判的考察によって課題を明らかにし、未来志向、問題解決型の提案を含むようにする。このような知的訓練を通して、神戸から世界を、世界から神戸を捉える双方向の視点や思考能力、実践的な問題解決能力を養い、グローバル人材の育成を目指す。

「神戸研究」の流れ

1. テーマ・リサーチ方法のガイダンス

- 講義テーマの大枠とリサーチの4つの指標提示(教員)
- 図書館ガイダンス(司書・教員・学生)

2. テーマ決定…「客観的重要性」「神戸と世界の接点」

- 背景リサーチ／コンセプト・ペーパーの提出(学生)
- クラスで口頭発表とブレインストーミング(教員・学生)
- 問題意識の明確化・各自のテーマを特定(学生)

3. リサーチ…問題の所在を特定

- より掘り下げたリサーチ(学生)
- クラスで進捗状況報告と個別相談(教員・学生)

4. 解決策検討…批判的思考で過去の対策を分析評価、改善案検討

5. 提言準備

- プレゼン原稿の執筆とスライド作成(学生)・添削(先生)
- 外部識者・実務担当者インタビューのため訪問先特定・インタビュー実施(学生・先生)
- インタビュー結果を原稿・スライドに反映して修正(学生)

6. 成果発表

- クラス内で英語プレゼン大会…発表15分・質疑応答10分が目安。
教員と学生が発表の内容面 (contents)、技術面 (delivery)、資料の質 (slide) を指標としてピアレビュー。

「神戸研究」テーマ設定の指標

□ テーマの大枠や地域の設定・・・4つの指標

1. **Importance (客観的重要性)**...not just because of your personal interests but also societies' needs should be behind your topic/thesis. In other words, you should be able to explain (and this should be certainly a part of your introduction in your writing/presentation) why it is important to examine your topic/thesis for the City of Kobe.
2. **Linkages between Kobe and outside worlds (神戸と世界の接点)** ...at least one international angle should be included. The “angle” could be through international flows of people, money, goods & services, ideas, etc.
3. **Problem-solving (問題解決型)**...do not just summarize and report what you learned in your research. I would like you to critically assess recent trends and current states of something you picked to meet the above first and second criteria, and come up with a recommendation. Of course, this does not have to be a grand strategy to solve everything at once. Even a tiny but constructive suggestion for a better change is fine.
4. **Forward-looking (未来志向)** ...directly related to the above third point. For your presentation's to be problem-solving oriented, naturally it should also be forward looking, meaning that, based on your careful analysis of the past trends and the current state, you should then look some years into the future and present your recommendation and persuasive reasons why it should work.

注意点

1. テーマ・リサーチ方法のガイダンス

- 図書館・インターネット等の効果的・効率的利用の仕方を理解させる

2. テーマ決定

- 「客観的重要性」と「個人的体験による関心」の違いを理解させる
- リサーチ・提言の方向性について必要に応じてナビゲートする

3&4. リサーチ&解決策検討

- 情報収集の仕方、集めた材料・データの妥当性の判断・取捨選択の仕方を理解させる
- 問題を多角的に把握するため、利害関係者によって異なるパースペクティブや複数問題間の関連性を理解させる
- 批判的思考、分析評価とは何かを理解させる
- 問題性をどこに見出したか、そのための最も効果的・効率的・持続的な解決策は何か、実施主体は誰かを明確に意識させる

5. 提言準備

- 外部識者・実務担当者インタビューを実施することによって図書館・インターネット等による情報収集の限界、現状把握・分析・解決案検討に際しての自身の知識や能力の限界、現実社会問題の複雑さ、対策の困難さを理解させる
- 効果的・効率的・持続的な解決策を誰にどのように説得するのか、そのために、データ・資料・アイデアをどのように紡ぎあげるのがより論理的・説得的か工夫させる

6. 成果発表

- 基本的なプレゼンの技術に加えて、質疑応答の仕方、他者の評価の仕方も理解させる